

第24回技術倫理協議会議事録

日時 2008年12月15日(月) 17時30分～19時30分

会場 土木学会会議室

出席者 議長：池田駿介(土木) 幹事：榎田晴美(技術士会)、~~三木哲也(電子情報通信)~~

アドバイザー：長島 昭(機械)

委員：~~丸野 順(工学教育)~~、皆川 勝(土木)、~~中村昌允(化学工学)~~、山崎宏(技術士会)、高橋信之(建築)、~~椿原 治(工学教育)~~、辻正俊(代；原子力)、~~矢野眞理(原子力)~~、小松尚久(電子情報)、小野京右(機械)、大輪武史(機械)、~~上野晴樹(工学アカデミー)~~、山田郁夫(工学アカデミー)、~~久保 佳実(応物)~~、~~芳野久士(応物)~~、~~御園生誠(化学)~~、~~後藤達平(化学)~~、佐々木三郎(電気)、島田敏男(電気)、~~増田幸宏(建築)~~

事務局：稲垣 一(土木)

議 事

1. 前回議事録確認
2. 倫理教育に関するアンケート
3. 各学協会の報告
4. その他(公開シンポジウムを振返って)

配布資料

No. 24-1 前回(第23回)議事録(案)

No. 24-2 技術倫理に関するアンケート

No. 24-3 第4回公開シンポジウム 報告

提供資料；① 技術士 機関誌 500号

② 平成21年電気学会全国大会シンポジウム(案) 提案用紙

議事メモ

1. 前回議事録確認

- ・事前のメールで修正済みであるが、さらに修正事項があれば事務局に連絡することとした。

2. 各学協会の報告

機械；

- ・倫理問題への対処法(小野先生の提案)は3月までに設立させるべく新たな内容を含め理事会に上申中である。
- ・処罰に対する異議申立ての取扱い(受付ける、または受付けない場合の仕組み)が課題となっている。
- ・最高の意思決定機関である評議員会の決定に意義を唱えるのはおかしいので、①理事会決定を通知した後に受付、②審議委員会決定を通視した後に受付、③異議は受付けないが評議委員会で申開き出来る、の3通り併記で庶務理事会に上程。
- ・処分(除名、資格停止、戒告・注意。除名と資格停止は名前公開。)はホームページで公開することになる。なお、資格停止は論文発表および口頭発表する権利の停止である。

電気；

- ・技術倫理研修について、より議論を深めた会を計画中。
- ・毎年3月の全国大会で技術者倫理のシンポを行っているが、今度は会員参加型にすべく企画中である。
- ・倫理委員会が発足後2年経過したが、処分や表彰についてさらに議論が必要な状況にある。他学会の意見を伺いに行くことも考慮中。

土木；

- ・前回報告内容から議論はあまり進んでいない。問題発生の場合の学会の意見表明についてはさらに議論が必要。また、処分は当面慎重に扱いたい。

建築；

- ・倫理綱領および行動規範見直しの常置委員会設置を検討中。

- ・英文化に続いて中文化およびハングル化を進行中。今後、アジア全体の各国語にして広めたい。
- ・ホームページを準備中である。

電子情報通信；

- ・3月18日、愛媛大にて全国大会を開催する。技術者倫理の現状と課題についてのパネルディスカッションを企画中。
- ・技術倫理検討WG（主査；三木先生）設置。倫理委員会設置に向けた方向性を探るため、アンケート予定しているので協力をお願いします。

技術士会；

- ・来年3月にテンポラリーな行事（シンポジウム：東京商工会議所後援）を開催する。1月1日にパンフレットを配布する。
- 原子力、食品および建設の3分野に限り、実学的に、コンプライアンスと倫理を分けて議論を行う。

アカデミー；

- ・12月2日に第1回目の技術倫理作業部会が開催された。具体的作業を開始した。

3. 公開シンポジウムを振り返って

- ・既往に比べ参加人数が若干少ない。集客、特に若い人、の努力が必要。
- ・誰を対象に開くか、を明確にしておけば良かったのではないかな。
- ・若い人には、内部通報は関心が薄いのではないかな。
- ・先生方であれば、若い人でも興味を持っているのではないかな。
- ・企業に所属する人の参加が少なかったように思う。
- ・議論がタイトルから乖離していたように思う。
- ・毎年テーマを絞ったほうが良い。
- ・テーマを絞ると初めて聞く人は議論に入りづらいと思うので、最初に前回までの解説が必要。
- ・今回の成果を数頁にまとめ、各学協会でホームページに掲載する等、活用してもらおう。このため、提供者から資料の使用許諾を頂く（技術士会了解済み）。
- ・研究者倫理が大変なことになっているが分かり有意義だった。
- ・意義申立て制度を設けても訴訟は避けられない。明確なルール、手続きに基づいて処分する必要があり、曖昧さがあると裁判で負ける。
- ・戒告等の指導的な処分が必要。
- ・ハラスメント（イデオロギー、国や民族の違いなどによるものも含む）については個人の処罰ではなく、学会としての意見表明をすべき。
- ・教育の場での実態把握が必要。

4. 倫理教育に関するアンケート

- ・技術倫理に関するアンケートが必要。
- ・大学では助教、講師への教育に問題（教育されていない）。
- ・先生は技術者倫理を自らの問題と考えていない。
- ・金沢工大では教育されているようである。
- ・教授（教育していると思っている側）と学生（教育を受けた側）の双方にアンケートしてはどうか。
- ・研究を進める上での作法を含めると良い。
- ・次回までに、池田と皆川でアンケート案を作成する。研究教育機関を対象とする。
- ・誰に答えてもらうか、等は次回議論する。
- ・春にアンケートを実施し、来年のシンポジウムはその結果をベースに行ってはどうか。

5. その他

- ・次回は3月24日（火）17：30～、土木学会会議室（CD）とする。